



ホームページにて一般質問の録画映像を公開しています。
二次元バーコードを読み取ってご覧ください。
※通信料がかかる場合があります。

部活動の地域展開と 礼儀教育

問 部活動の教育的意義のうち、子どもたちの品格形成のための礼儀や規範意識の向上に向けた取組状況は。

答 それぞれの活動を通じて、子どもたちが他者と関わり、規律を学ぶ環境が、各クラブ内で、自立的に育まれることを重視している。

問 学校・家庭・地域が共通の評価軸を持ち、子どもたちの成長を支えるための地域展開に特化したガイドライン策定についての考えは。

答 一律の礼儀基準などを示す考えはない。身近な大人が、自らの言動で、心地よい挨拶や他者への感謝を体現し、子どもたちからの憧れとなり、自然と礼儀を学び取っていく「自律的な学び」を促す環境づくりを支援していく。



ウェルビーイングを実感

ウェルビーイングを 実感できる袋井市

問 全庁横断的にKPIを管理する司令塔の設置が必要である。部局横断で「健幸」を推進する司令塔設置の考えは。

答 新たな総合健康センターの建設も部局横断的な体制により、基本構想の具現化に取り組み、各部局の連携を強化し、状況に応じて組織を新設するなど対応していきたい。

問 学級担任の年度当初からの未配置はどうか。産休などの代替職員は確保されているか。

答 小・中学校ともに通常学級、特別支援学級、通級指導教室での未配置はない。加配教員については中学校2名、小学校7名の未配置が生じている。産休職員の代替教員は、中学校で1名未配置となっている。今後、産休育休に入る予定の教員が現時点で3名いるが、代替者の確保に努めている。

問 退職者など、有資格者の非常勤職員確保の状況はどうか。

答 教育委員会や校長からの要請で54名の教員が復帰した。内訳はフルタイム再任用教員・臨時任用教員24名、非常勤講師30名である。現時点で教員不足は解消しておらず、採用・募集を継続している。

市内小・中学校における 教職員不足の実態

問 教員不足の要因をどう捉えているか。

答 験の志願者数は減少傾向で、教職の志願者数自体が収縮している。加えて、特別支援学級や通級指導教室の増設による必要教員数の増加や、近年は男性の育児休業取得者も増えたことも影響している。若年層で転職などにより離職する教員も以前に比べて増えている。働き方やキャリア観の変化も大きな要因の一つと捉えている。

問 遠州灘海岸に面する地域全体が一層魅力的なエリアとなるよう、磐田市との同日イベント開催によるPRや来場者の相乗効果を図るための連携など、広域的な視点での新たなにぎわい創出に取り組んでいきたい。

答 遠州灘海岸に面する地域全体が一層魅力的なエリアとなるよう、磐田市との同日イベント開催によるPRや来場者の相乗効果を図るための連携など、広域的な視点での新たなにぎわい創出に取り組んでいきたい。

問 広域連携による海のにぎわい創出についての考えは。

答 遠州灘海岸に面する地域全体が一層魅力的なエリアとなるよう、磐田市との同日イベント開催によるPRや来場者の相乗効果を図るための連携など、広域的な視点での新たなにぎわい創出に取り組んでいきたい。



浅羽南小学校の授業の様子

海のにぎわい創出と 官民共創

問 実装段階における市の認識は。

答 今年度からは実装段階としてさらなる利活用の促進を図るため、これまで開催してきた海プロフェスタに加え、民間や各種団体などが実施するイベントへの支援、さらには官民共創による観光誘客イベントを開催することにより本エリアの利活用を本格的に推進していきたい。

問 海のある暮らしと若者定住についての考えは。

答 地震や津波を正しく理解していただき、適切な避難行動につなげていくなど、「海のある暮らし」の魅力と防災に対する備えを正しく伝えることが若者の移住・定住につながる上で重要である。また官民共創でうみてらすDORの魅力を伝え、浅羽南地区の地域資源に磨きをかけ、本エリアのブランド化を促進し若者定住につなげていきたい。

問 海のある暮らしと若者定住についての考えは。

答 地震や津波を正しく理解していただき、適切な避難行動につなげていくなど、「海のある暮らし」の魅力と防災に対する備えを正しく伝えることが若者の移住・定住につながる上で重要である。また官民共創でうみてらすDORの魅力を伝え、浅羽南地区の地域資源に磨きをかけ、本エリアのブランド化を促進し若者定住につなげていきたい。



幸浦に輝く「うみてらすDORI」



木下 正 議員



高橋 美博 議員



森岡 弘記 議員

